



Bーぐる沿線協議会ニュース

第19号

平成30年7月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 区民課庶務係（コミュニティバス担当） 03-5803-1387

平成30年6月6日に沿線協議会が開催され、事務局から平成29年度に実施した「文京区コミュニティバスBーぐる課題等分析委託」調査の結果報告があり、参加委員から活発な意見が出されました。

「文京区コミュニティバスBーぐる課題等分析委託」の結果まとまる。

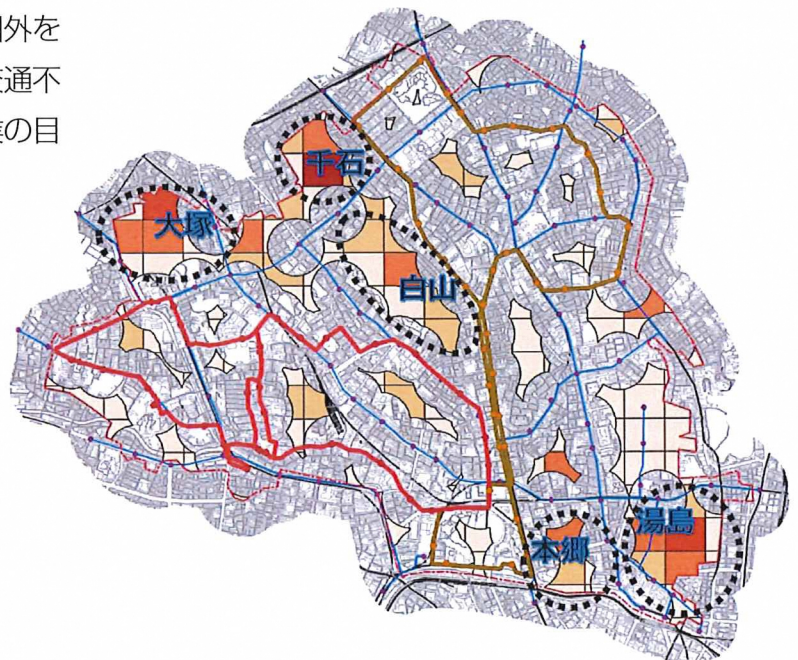
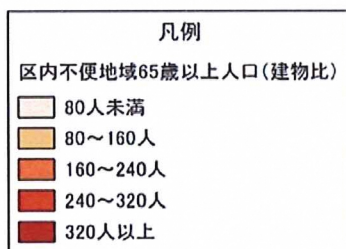
この調査は、Bーぐるの運行サービス、バス周辺インフラ、路線、事業性の4つの視点から最適な事業のありかたを検討するための分析と方向性を明らかにすることを目的に実施されました。平成19年4月の運行開始から丸10年が経過し、Bーぐる沿線の環境も変化している中で、区全体の公共交通ネットワークの中でBーぐるのあるべき姿を見直す機会となりました。

区は、鉄道駅及びバス停から半径200m圏外を公共交通不便地域と定義しており、この公共交通不便地域を解消することがコミュニティバス事業の目的の第一であるとしています。

現在区内には、白山、千石、大塚、本郷、湯島に公共交通不便地域が点在しており（下図）、本調査では、既存路線の再編案、逆ルート案・新規路線案について、期待される効果と検討課題の洗い出しを行いました。

区ではこの調査結果を受け、区全体としてみたコミュニティバスの方向性を検討していく予定です。

文京区内の公共交通不便地域



既存路線の再編案及び新規路線案の比較検討結果

	既存路線の再編案	逆ルート・新規路線案	
		逆ルート	新規路線
期待される効果	・公共交通不便地域の解消	・利便性の向上	・公共交通不便地域の解消
検討課題	・所要時間の延長により、速達性や定時性に影響	・都バス路線との重複が増加 ・交通規制（右折進入、一方通行区間） ・事業採算性の低下	・都バス路線との重複が増加 ・事業採算性の低下

資料：文京区コミュニティバスBーぐる課題等分析委託報告書

路線の検討手法や情報提供の充実等、多岐にわたり検討

事務局からの報告を受け、参加委員から多くの意見が出されました。

路線の検討手法に関しては、区民参加のワークショップ形式が提案され、国土交通省で公開しているビッグデータを活用したバス経営の最適化のツールを活用して路線の最適化を検討することやシビックテックという考え方に基きバスロケーションシステムのオープンデータ化（情報公開）等、路線を検討する手法に関する提案もありました。

湯島本郷地区の委員からは、区内をくまなく走るのがコミュニティバス本来の姿。ぜひBーぐるの路線がほしいとの要望があり、これに対し竹田区民課長は、昨年度調査は公共交通不便地域を分析し、各ルート案の効果と検討課題を洗い出した段階。今日出された意見を踏まえ、区としての考え方が整理できた段階で方向性を示したいと説明しました。また路線を検討していくにあたり、区境や交通規制（右折進入等）に囚われず自由な発想で検討をスタートすべきという意見に対し、竹田区民課長も路線案が出来た段階で、警察等関係機関に対しねばり強く交渉していきたいと回答がありました。

話題は路線の検討以外にも及びました。情報提供に関しては、多くの人が利用する google 検索にBーぐるが挙がってこない、沿線の観光施設の案内やイベント情報の提供が不十分、Bーぐるマップ英語版の英訳が不自然な箇所がある等、日常的に利用している区民だけではなく、区外や海外から観光で来てBーぐるを利用する人に対する情報提供の充実が必要という意見が出されました。

さらに、車椅子の利用者が少ないのは結果として遠慮があるから。誰もが気兼ねなくBーぐるを利用できる雰囲気づくりが必要といった意見、運行事業者のやる気を引き出す運行支援のあり方等、多岐にわたる意見が出されました。

区はいつまでに何を実現したいのか、そのために

いつまでにどういう風に進めていくのかといったゴールからも必要。次回区の姿勢を示してほしいといった意見が出されました。

委員から出された意見や提案

【検討手法】

- ・区民参加のワークショップ形式による路線検討
- ・ビッグデータを活用したバス経営の最適化のツールの活用

【ルートや起終点】

- ・シビックセンターバス停周辺（車寄せ）の動線の改善
- ・千駄木・駒込ルートの起終点がシビックセンターでない。（都バスとバス停を共用しているため）
- ・区境や交通規制に囚われず自由な発想で検討してみる

【情報提供】

- ・バスロケーションシステムのオープンデータ化
- ・google 検索にBーぐる情報を提供
- ・沿線の観光施設の案内やイベント情報の提供を充実（インバウンド対策）
- ・Bーぐるマップ英語版の英訳は再度確認作業が必要

【その他】

- ・車椅子の利用者が遠慮せずに利用できる雰囲気づくりが必要
- ・運行事業者のインセンティブにつながる運行支援（補助金）の仕組み



編集後記

史上最高の盛り上がりを見せた今回の沿線協議会。区民（沿線地域・非沿線地域）の代表、運行事業者、区民課が、互いに相手を尊重しながら意見を述べ合いました。今回話題の中心となった路線の検討はすぐに結論が出るものではありませんが、どのような結果になるにせよ、多くの区民が納得できるプロセスを踏むことが大切だと感じました。（N）